

## 会 議 記 録

次の審議会（協議会）を下記のとおり開催したので報告します。

審議会等名称	第 2 回近江八幡市教育振興基本計画中間評価委員会
開催日時	平成 2 9 年 2 月 2 0 日（月）午後 5 : 0 0 ~ 午後 7 : 2 5
開催場所	市役所南別館 3 階 水道事業所会議室 A ・ B
出席者 ※会長等◎ 副会長等○	<p>【中間評価委員】</p> <p>◎壬生 裕子 阿加井 裕之 ○中谷 喜久男 井上 京子 加納 隆 大川 恒彦 北川 泰 大船 めぐみ</p> <p>【職務により出席したもの】</p> <p>教育部長 江南 仁一郎 学校教育課 課長補佐 森 茂次 生涯学習課 参事 明石 誠 生涯スポーツ課 課長補佐 杉谷 良彦 図書館 館長補佐 奥村 恭代 給食センター 主事 日岡 豊 文化観光課 参事 奈良 俊哉 幼児課 副主幹 深井 千恵 教育総務課 課長 北村 美栄子 課長補佐 山元 和夫 副主幹 武田 善雄 副主幹 伊崎 佐知子</p>
次回開催予定 日	平成 2 9 年 3 月 1 7 日（金） 1 4 : 0 0
問い合わせ先	所属名、担当者名 教育委員会事務局 教育総務課 武田・伊崎 電話番号 0748 - 36 - 5539 メールアドレス 040200@city.omihachiman.lg.jp
会議記録	別紙のとおり

担当課⇒総務課

## 1 開会

司会

第1回会議で中間年までの目標に対する各施策と進捗状況の説明を踏まえ、今日は多くの意見をいただければと考えている。

本委員会は、「近江八幡市会議の公開に関する取扱要綱」に基づき、公開される。傍聴対応や、会議内容の公表についてご了承いただきたい。

## 2 議事

### 各施策中間評価について

委員長

本日の議題は、現在の計画に対する中間評価についてとなる。前回の資料を基に意見交換する。各施策の取組状況に対して今後の5年に向けて新たに取り組むべき点と、見直すべき点について教育振興基本計画の目標ごとにご意見をいただきたい。まず、目標1についてはいかがか。

委員

「早寝早起きあさ・し・ど・う」は大変すばらしい合言葉である。これは大人である一般社会人にも実践すべき。ZTVなどの活用により保護者や市民にもPRが必要である。

委員

子どもを育てていくには、どうしても地域の方々皆で育てていかないといけないと思う。

委員

運動能力の向上を目指しているということだが、毎年アンケート調査をし、結果を開示していくことが必要。キャッチフレーズだけで実態が伴っていないならば、改善が必要である。10分の運動では足りないだろうし、そのあたりを具体的に表に出していく必要があるのではないか。子ども全体の状況を開示してほしいと思う。

学校教育課

運動能力については、新体力テストを文科省の実態調査で実施しており、結果の数字は毎年でている。結果は学校現場には返しているが、ご意見をいただいたように、地域に開示することはなかったもので、広報やホームページなどで市民への情報提供についても検討していきたいと考えている。

委員

広く地域に公開してもらうことで、スポーツ少年団の指導者などが子どもに不足している部分に力を入れて教えようといった形で、レベルアップを図ることが大事であると思う。

学校教育課

簡単に結果を言うと、中学生の結果は、県や全国よりも高い。小学生、特に女子の運動に課題がある。投げる、跳ぶという所に課題が大きいということが分かっている。

委員

幼児にもスポーツテスト、体力テストがあり、八幡幼稚園は3年前に実施した。老蘇幼稚園など何園かは実施している。毎年続けてはなかなかできないが、「投げる」ということが弱いので講師を招いて「投げる」ことに特化して、去年、今年と八幡幼稚園では教室を実施している。結果を見て、各園所も弱い部分に力を入れてやっていくというような活動はしている。

- 委員 技術・技能も大事だが、幼稚園や小さい時からの体を使った遊びにより体力や色々なものを向上することが大事だと思う。運動の基本では、身体を動かす遊び、特に小さい子からスタートして行くよう考えて行った方が良いのではないかと思う。
- 委員 基本的に「早寝早起きあさしどう」は全て根幹にかかわる部分だと思う。ところがこれが制定されたのが、10年ほど前だと思うが、それから育ちの環境や社会情勢の変化により、保護者の共働きも増え、経済格差も出ている。市内でも不登校児童が増えている。一方で、経済的に裕福な家庭もある。社会のひずみが有ると思う。言いだしたらきりがないが、そういうことを含めて、このスローガンは継続していただきたい。
- 委員 今の経済格差や、子どもの貧困ということで、朝食がとれていない子どもはいるか。
- 学校教育課 前回配布したアンケート結果では、朝ごはんは、小学生、幼稚園では、ほとんどが食べている。ただ中学校になると食べないという子どもが増えてきている。
- 委員 それは家庭に原因があるということではないのか。
- 学校教育課 そうではなさそうである。
- 委員 朝食を食べているということについて、親としては食べさせていると言われるが食べさせている内容を実際に聞いたら、お菓子を食べさせて、朝ごはんだという方もいる。本来あるべき朝ごはんを食べさせている家庭は、どれだけあるかということころまで調査はできないと思うが。
- 学校教育課 このアンケートはこの項目だけでなく、他に項目があって、食事の内容を聞いているものもある。
- 委員 普通の食事となっているか。
- 学校教育課 今データが手元にないが、こちらで集計したものは、各学校園に返しているんで、その様子は見ていると思う。
- 委員 この集計したものを、学校に返されるということだが、これは保護者の手元には届くのか。
- 学校教育課 この結果を学校だよりで出されている学校もある。
- 委員 余談になるが、子どもが便りを親に渡していないことがあるときく。確実に親の手に渡る方法を考えては、タウンメールなど様々な方法があると思う。
- 学校教育課 来年度は食事の中身についても返せるようなものを用意していきたい。
- 委員長 2つ目の「近江八幡の実態に即した特色ある就学前教育の充実に努めます」について意見を聞きたい。

- 委員 公立の幼稚園から、私立の認定こども園になりつつある状況の中で、行政として指導ができていないといけないと思う。
- 部長 今までの公立の幼小中の中で取り組みをしてきたが、これからはやはり私立の保育所、こども園にも入っていただかないといけないと考える。いずれは公立の小学校に子ども達は進学するので、その意味から来年度当初、私立の保育園、こども園も入っていただく中で、市の教育方針を伝える場づくりをしていく働きかけをしている。この中間改定の計画の中にも、そういった就学前のことについて、意見をいただきながら、充実した内容にしていきたい。
- 委員長 そのような考えがあるのなら、後押しができればいいと思う。
- 委員 「地域に開かれた特色ある園づくり」や「多様な体験と様々な人の交流」という所で、この5年間これを目指して一生懸命取り組んできた。この目標を、私立のこども園、保育所にも広めていくことが大事だと思っている。これから公立の保育所、幼稚園の役割として、私立のこども園や保育所にも広めていくということも必要であると話している。幼児課主催の研修会には私立にも声をかけて、資質向上にもつながっていくように取り組んでいる。このように計画や目標に掲げているからこそできていることなので、今後もきちんと目標として掲げていないといけないと感じている。
- 委員 確認するが、今の一番上に書いてある「地域に開かれた特色ある園づくり」これは公立も私立も含めてということでしょうか。
- 幼児課 この計画に挙がっているのは、現在は公立幼稚園でしていることとなる。今皆様の意見にあるように、公立幼稚園・私立の保育所・認定こども園、様々な子ども達が同じように就学前として豊かな体験をして小学校につないでいけるように、その辺りももう少し考えていかなければいけないと感じている。幼児課主催の研修会では、公立と私立という垣根を取りながら、皆で近江八幡市の子どものことを考えられるように、そういう方向で取り組んでいきたいと考えている。
- 委員 私立の特色としては人集め的な経営戦略が、前面に出てこないかと考える。例えば、島は八王子さん系と全部連携しているのですが、英語教育にすごく力を入れておられるところである。全国的には、裸足の教育、朝から体操服で乾布摩擦をやっている園などがある。そこで「地域に開かれた」というのを、私立はどのように捉えたらいいかということのを慎重に考える必要がある。近江八幡市の子どもを育てるために、行政指導の面からどういうふうに関わってほしいのかというのが、大変難しい局面になってくるのではないかと考えている。
- 委員 私立にしかできなかった部分もあり、特別の鼓笛隊を作って演奏させたりという私立の幼稚園もある。それはそれでいいとこどりをして欲しい。今、幼稚園であれば地域コーディネーターというシステムをそのままで

できれば活かしてもらって、地域のボランティアが保育所や幼稚園に入っ  
ていただき交流ができる、そういうシステムは残してほしいと思う。難  
しいかもしれないが。

委員 近江八幡市の子ども達ということだから地域の公立に行く子ども、また  
私立に行く子ども、両方いる。近江八幡市の教育委員会は、公立の為だ  
けの教育委員会ではないはず。そしたら先生方は、研修だけでなく実際  
に交流をして、近江八幡市全体の子ども達をどうするか、公立私立関係  
なく何を大事にしていくかということを確認あう時間を、少しずつ作  
っていくといいと思う。公立はこうしている、私立はこうしているとい  
うのではなく、市として全体として見ていただいた方が良いのかなと思  
う。

委員 そういう交流はあまりされていないのか。

生涯学習課 中学校区ごとに、全ての私立も公立の幼稚園、保育所も全部まとめて交  
流している。年間二回大きな教育講演会を開催している。

委員 講演会に参加するだけではなくて、その中の人と人との交流が無かった  
ら、それぞれが講演会を聞いただけでは、交流ではないと思う。そこで  
意見交換やそれぞれ課題を話し合う、交流を持てたらと思うので、もう  
一歩進めていただきたい。

委員 中学校区ということは、八幡市全体の交流会ではないのか。

生涯学習課 生涯学習課が担当しているのは、中学校区ごとに、子ども達の自尊感情  
を高めようというような取組である。

委員 全体ではなく、近江八幡市4中学校区あるから、4ブロックに分かれてと  
いうことか。

生涯学習課 はい。

学校教育課 教育委員会が定める学校管理規則がある。公立学校には指導助言はでき  
るが、私立にはできない。だから私立に呼びかけて、協力してもらえ  
たら、という形となる。そのようなところがあり、なかなかこちらから持  
っていけない事情がある。

部長 そのあたりの仕組みを整えていきたいと思っている。例えば基本事項の  
「早寝早起きあさしどう」では民間こども園にはなかなか伝わっていな  
い。それが現実だと思う。

委員 私学では、保育士が足りないから、交流会の参加のために昼間の保育時  
間中に抜けて参加することは、多分無理だと思う。

委員長 今まで続けてこられたことをきっちりやることと、可能な限り新しい  
ことに取り組めたら良いと思う。

委員 行政がどれだけ関わられるかという所だと思う。

- 委員長                   では、3つ目の目標「確かな学力を育成します」に関して、意見があればお願いしたい。
- 委員                      「基礎基本の徹底による基礎学力の向上」については、学力・学習状況調査の結果を見て、少しずつ上向いていて、各学校も努力されていると思う。しかし今これから、文科省辺りが求めているのは、ここだけに収まらないと感じる。取組の施策の内容が、基礎基本だけに限定するのではなく、施策の方向や名前を考えないといけない。昔から「確かな学力」と「豊かな学力」が行き来している教育の歴史がある。最近では主体的、共同的な学びと言われているので、その辺りをにおわせるような表現が良い。
- 「読書活動による読解力の育成」も確かにあるが、読書活動イコール読解力の育成だけではないと思う。図書館教育の充実を考えた時、読解力の育成をするのは、学校教育における国語科の役割である。読書活動の推進によるという点では読解力が適切なものが引っかかる部分である。
- 学校教育課               その辺りは担当課でも話し合っている。計画ができたのが5年前で、それから変化が激しく、これから後期に入るので、基礎基本だけではないということで、変えないといけない。
- 読書についても、ここの読書活動というのは本当に大事だが、確かな学力と言うよりは、今は学校で学校司書を置いて、子ども達がたくさん本を読む、楽しく本を読む、良い一冊に出会える、そういった本との出会いに親しむ時間を大切にしたい。この施策を確かな学力ではなくて、違う項目に読書活動のことを触れて行こうと思う。
- 委員長                   名称など、今回の皆さんの意見を踏まえ、見直しをしていただくことをお願いしたい。
- 委員                      読解力と直結しているかと言うと、読書イコール国語力と言われるのはどうなのかなといつも思っている。読書の力というのは、学力だけでなく人間形成の上で大事なことだと思う。
- 前回の説明で学校司書を置いて、今後増やしていくと言われた。それは結構なことだが、27年度評価を見たら、廃棄本とか、ハードの部分ばかりが上がっていた。そうではなくて、やはり選書から全部含めて、専門的な知識が必要だと思う。そのためには学校司書になる人の研修も必要だし、図書館との連携といったものを充実させていかないといけない。機会があって、いくつかの学校図書館を見せていただいたが、確かに汚い本が無くなってきたが、選書の面では不十分だった。それは図書館の専門の人の力を借りるとか、お互いが研修し合っただけの連携が必要である。子ども読書とは、子どもが喜ぶ本だけを置くことではないと思う。順番に、段階的に出会っていくものだと思うし、司書の力を借りて、子ども達に届けないといけない。置いておくだけでなく、ソフト面の充実ということも、学校図書館では大事なことだと思う。
- 委員                      各学校に司書を置くからそれで良いということではなく、子ども達の活字離れが進んでいることへの取組が必要である。この教育振興基本計画の対象は子どもだけか。近江八幡市民全体ということか。

委員 生徒数によって図書の数が増えてくるが、その充足率は完全に出来ているか。

教育総務課 図書に関しては、全校で100%という状況にはない。足りていない学校、逆に100%を超えている学校もある。通常の整備の観点では、100%を超えると、そこは整備費用を段階的に落としていき、足りていないところを重点的に予算措置し、図書を買う。しかし学校の図書館は必ず質が問われる。100%であっても、古い図書ばかりでは子ども達が本に親しまなくなるので、毎年何らかの図書を買うようになっている。

委員長 「すこやかな心と体を育成します」について、意見があれば願います。

委員 児童交歓会というのは、夫婦都市の富士宮との交歓会のことか。

学校教育課 はい。

委員 なぜ宿泊先が希望が丘になっているのか。近江八幡に宿泊しないといけないと思う。

学校教育課 おっしゃる通り。

委員 それだけは、やはりきちっと守ってやらないといけない。

委員長 毎年の交歓会なのか。

委員 隔年で行ったり来たりしている。

学校教育課 その交歓会を再来年に近江八幡で開催する。50回の記念である。

委員 今までは小中学校で実施していたが、最近は中学校は行ってないと聞く。

学校教育課 はい、10年ぐらい前から実施していない。

委員 せっかくの事だから、実施したらいいと思う。

委員 給食について確認する。センターで完全に給食が実施されているのか。

学校教育課 金田小学校だけが自校方式であり、沖島小学校は材料だけを運び学校で調理している。

委員 センターになって変わったことはあるか。良かったということは何か。やっぱり自校が良かったとか、そういうことは無いか。

学校教育課 子ども達が言ったのは、味が変わったと言うが、他は特にない。

委員 中学生にしたら量が少ないのではないか。

学校教育課 一定基準量があるので、基準量に応じて提供している。たくさんほしい子はおかわりしている。

委員	国際理解教育の推進について、近江八幡市は、努力されていると思って いる。小中学校への ALT の配置などにより多くの指導者がいる。これは 他の市より随分恵まれた状況にある。本当に努力されていると評価した い。
委員長	「教員の指導力と学校の知識力の向上に努め、信頼される学校づくりを 目指します」に関して、意見ををお願いします。
委員	本市の子どもたちの学力をどう高めていくのかという所で、各学校の校 内研だけでなく、市の教育委員会として、一定課題解決するための施策 を、しなければいけないと思う。具体的には教育研究所が開催する研修 会に授業改善の取組や、一定の改善策を打ち出すとか、研究員をどう活 用するのかなどをやっていく必要があるのではないか。
学校教育課	教育研究所が担っている主たるところなので、研究所が機能するよう に考えたい。
委員	学校に朝あいさつ運動などに行くが、あいさつができていない先生が多 い。子ども達にあいさつしなさいと指導しているなら、まず先生方が見 本となるべきと考える。
委員	ICT を使った教育は進化しているが、電子黒板を使うことにこだわり過ぎ の部分があり、先生の工夫やいい面がかき消されている。それでは本来 の電子黒板の意味はないのではないか。その点の研究が先生方は大変だ ろうが、必要だと思う。 またタブレットを使う授業もあるが、これは1年生からなのか、高学年 になってからか。
学校教育課	研究校が3校あるが、既に1年生から使っているところもある。子ども 達は、覚えが早い。しかし、結局 ICT はあくまでも道具だから、効果的 にピンポイントで、シンプルに使うのが、一番子ども達にとっていいと 思っている。 ICT を使って全ての授業ができるとは思っていないし、その時その時で、 一番簡単に使えるような整備を行っていきたい。
委員	心配なのは、実体験をしないで、バーチャルなものだけで体験して行っ て、その後の弊害というのが問題になっている。ICT に偏りすぎたら、何 のため子ども教育かとすごく危険を感じているので、近江八幡市とし ても、周知を兼ねてやっていただきたい。
委員長	「学校、家庭、地域の連携と強化を図り、子どもの成長を支えます」に ついて、ご意見ををお願いします。
委員	全てにおいて学校に押し付けるばかりではなく、地域としても学校と連 携をとっていく。その中で、上手く地域が手を差し伸べるようなシステ ムの構築ができないか。
学校教育課	地域コーディネーターを全ての公立小学校、中学校、幼稚園で、平成 29



年度からは 2 つの保育所にも配置し、実施していこうと思っている。その方を中心に、地域のボランティアの方に、声掛けさせていただき、「たんぼのこ」の田植えのことや、家庭科の裁縫のこと、料理などに協力していただいている。

委員 地域のボランティア組織があるのに直接頼む部分があった。学校長の采配でこの会の運営をしている学校とない学校があるから、おかしい。年度初めでも、了解を貰ってから事業をするならいいが、何もなしで事業をするのはおかしくないか。校長によってする年としない年がある。これは、どちらでも良いのか。しなくてもいいなら、このような組織を作る必要がない。コーディネーターに任せればいいのか。また、評議員会は、している学校としていない学校があるが、するべきか、しなくても良いものなのか。

生涯学習課 評議員制度というのがあり、校長がその地域の方を中心に学校評議員を任命し、1年間に1回、2回、3回来ていただいて、学校評価、学校運営についてのアドバイスも貰っており、どの小中学校でも実施していると思う。

委員 どの学校とは言わないが、現実として1年、2年無かった。

学校教育課 法律上でしなくてはいけないとは規定されていない。ただ、どこもあると思う。

委員 この年の校長はしていて、次の年の校長はしない。また、その次の年の校長はするというのはおかしいと思う。基本的にしないといけない。だから、評議員は学校に物申す会なので、「何で学校評議員会を開かないのか」と地域がいうべきである。

委員 何でも子どもの教育イコール学校という部分が有って、学校がオーバーワークになりつつある。いくつかコミセンにお願いした例がある。その一つがスキー教室やふるさと学習での味噌作りなど。お互いの事業の中で、上手くコラボして子ども達を育てるのも一つと思う。

委員 地域で行事をする、参加しない子どもは全然参加しないし、逆に学校行事であれば嫌でも行くということもある。

委員 家庭支援コーディネーターで8校配置があるが、無いところはどこか。

生涯学習課 金田小学校、馬淵小学校、沖島小学校は見つからなかった。

委員 もう一校は。

生涯学習課 岡山小学校と思う。

委員 聞いたことがない。これは生涯学習課が依頼しているのか。

生涯学習課 校長を通じて、地域の方にコーディネーターを依頼し、家庭と学校を繋ぐ役割をしていただいている。声はかけさせてもらっているがなかなか

	コーディネーターが見つからない場合もある。
委員	地域で考えるので、地域にも言っていただきたい。
委員	「地域の子育て」の「伝えよう熱い思い」について、小学校の PTA も出ているのに、小学生が誰も出ていない。中学校の代表だけが、「伝えよう熱い思い」で演説をしている。何名かだけでも小学生がスピーチできるようなことがあっても良いのではないかと思う。
生涯学習課	検討したい。
委員長	「子どもの教育環境の整備、充実を図ります」についてのご意見を。
委員	小中一貫校の試行ということは、中学校も分散させるのか、それとも小学校をもっと大きくするのか。
学校教育課	5年前の計画策定時に決められたが、今は何も検討ができていない。やはりこれから子どもの数が減少していく。今の学校数も何年、何十年後に維持できるのかということも、大きな問題がある。難しいとは思いますが長いスパンで考えたら、そういうことを視野に入れたいといけないと思う。
委員	不可能なものは省いたらいい。後5年の内に、絶対できないから。
学校教育課	事務局で相談したい。
委員	金田小はいつまで自校給食か。なぜ自校給食なのか。
給食センター	平成32年3月までが自校給食である。
部長	調理師を職員配置によるものが3年先で、二段構えでしている部分もあるのと、小学校を建てられた後に、給食センターの話が出たため。
委員	せっかく近江八幡市内全幼小中の給食センターができたので、中途半端になる。二重の経費がかかっているということにならないか。
委員	弾力化の拡充という項目では、だんだん増えているのか。島小が一番どうなるか分からないので、もっと来て欲しい。もっと通いやすいように、バスか何かあるのか。
教育総務課	現在は、保護者送迎である。次年度増やす目的で、島小をモデル校とし、通学支援を考えている。
委員	良い事だと思う。もっと島小に行かそうかと考えるかもしれない。
委員	地域の子は地域で育てようと言っているのに、弾力化と言って、よその学校に行きなさいと言うのは矛盾していないか。
委員	当該校の校長として、両方の声が聞こえている。大きな課題と思う。単

に人数を増やせばいいというものでもないし、学校の特徴を出せば、人が来てくれるものでもない。

- 委員 不登校児童の対策としては一定の効果はある。
- 委員長 次に「いきいきと暮らし、学びあい、躍動する元気なまちづくりのために」について意見をお願いしたい。
- 委員 公民館の役割と機能の位置づけという項目はまち協に変えないといけないのでは。
- 委員 市民の学習機会の提供について、子どもの育成を考えた場合、一番来ていただきたい保護者の方が来てくれない状況をもっと来てもらえる様にアピールすることが大事だと思う。
- 委員 幼稚園だと、幼稚園の時間に、保護者の研修会を開催する。ノルマを設定すると行かれる方が増える。行ったら行っただ、良かったと思ってくださるので、工夫やしかけも大事である。
- 委員 いろいろな講演会を主催しても、案内だけではほぼ来てくれない。滋賀県全体の中で何故か近江八幡市民の参加者は少ない。絶対聞いて欲しいと思うことは、主催者は「だまされたと思って参加して」というぐらいの感じで、声をかけていかないといけないのではないのか。
- 委員 広報に載っているだけでは、恐らく目に留まらなくて、見過ごされると思う。広報の仕方や、誘いかけの仕方がこれからの課題ではないか。
- 委員 4番の社会教育関係団体は、どれぐらいの団体を捉えているのか。
- 生涯学習課 現在は市P連、PTA連合会、子供会育成者連合会、ボーイスカウトとガールスカウトが対象である。
- 委員 ボーイスカウト、ガールスカウトは、合わせて3団体ではないのか。
- 生涯学習課 はい。1団体は去年から休止されている。
- 委員 文化協会とかは、社会教育関連団体ではないのか。
- 生涯学習課 ここでは、生涯学習課から補助金を出させていただいている団体を主に挙げている。
- 委員 それで良いのか。近江八幡市であらゆる社会教育関係団体を生涯学習課

でここで面倒見ますという話ではないのか。補助金を出しているところの団体だけという話か。

- 生涯学習課      そうです。数年前には地域女性団体様も、入れていたが。
- 委員              近江八幡市の教育振興基本計画の中に、社会教育関係団体の育成支援と言ったら、あらゆる社会教育関係団体が全部入ってこないといけないのでは。例えば、役員の成り手が無いので、高齢化になった大変な状況とかが見えてこない。それをどうするかという話が、5年計画にないとダメなのではないか。
- 部長              補助金を出している、出していないという枠組みではない。そこはトータルで、この計画の中では考えていきたい。
- 委員              検討してください。
- 委員長            ご意見をまとめると施策の名称を見直した方が良いと言うこと、講演会でいかに人を集めるかをしっかり検討する必要があるということ。社会教育関係団体の捉え方について整理すべきという事となる。  
次に「誰もが気軽にスポーツ・レクリエーションを楽しむことができる機会を充実させます」について意見をお願いします。
- 委員              スポーツ推進委員会を有効活用いただきたい。市民の健康へのお手伝いだと思っている。
- 委員              成果指標成果が100%を超えているのは実際に来られた方は100%かもしれないが、大半来られていないという点で考えないと。盛況であったとか、そういう表現にするべきで、数字で表す問題ではないと思う。  
2番の、「健康づくりと人々の交流の中」では、生涯スポーツ課だけでなく、健康推進課と横断的に一緒に考えないといけない。教育委員会だけでなく、他の機関を入れていかないといけないと思う。
- 生涯スポーツ課    一点目の、成果指数は、スポーツ教室などスポーツをする機会の提供、開催、回答数を目標に上げて、目標設定・成果指数の方を修正していきたい。
- 委員長            他部署との連携について、重要なご指摘をいただいたがどのようにお考えか。
- 生涯スポーツ課    スポーツフェスタでは、健康とスポーツということをテーマに、健康推進課と合同開催している。今後の成果指数では、そういった成果を上げていきたい。

- 委員                   この人口の1%以上となっている根拠はどこから出ているのかが分からない。
- 生涯スポーツ課      近年の数値を下回らないから、実績から算出して2パーセント程度を目標に、それを下回らないように、なんとか頭打ちの状況を打破していきたいと考えて、最低ラインとして設定している。
- 委員                   しかし、これは将来に向けての目標となる。目標が最低限度というのは、いかがなものか。もう少し考える余地があるのではないか。5年後のことを考えるとすれば疑問に思う。
- 生涯スポーツ課      修正できるものは、そういった方向で修正したい。
- 委員                   今、建設中の新エネルギーパークの隣にできるプールやいくつかの施設は、市の直轄で運営されるのか。
- 生涯スポーツ課      指定管理になるが、管轄は生涯スポーツ課となる。
- 委員                   他市でも、そのようなスポーツ施設は結構あるが、今まで近江八幡市は正直少なかった。ちょっと運動公園だけでは限界があり、野洲市に行かれている方や、東近江市に行かれている方がたくさんおられた。本市がそういう施設ができると、今後5年間を、市民の方に活用しやすいものに持っていくかというのは、大事な視点かと思う。
- 委員                   今の施設の関係で言うと、この4番の中に、向こう5年間の新たな施設の計画を立てていかないといけない。
- もう一つ、3番の「市民が一体となって、まちぐるみで取り組むスポーツの事業」では、体協がやっている水郷の里マラソンや、駅伝はまちぐるみでやる取組と違う。学区でやっている体育祭や、運動会なり、そういうものが取り組むスポーツの事業であって、それをメインに出さないといけない。
- 委員                   近江八幡市でメインとなるスポーツ大会なら、水郷の里マラソンや駅伝がある。ただ、近江八幡市の一大イベントと言いながら、駅伝で田園の中を走るコースである。逆に、もっとメイン道路を走る、子ども達が夢を持つような大会にしないといけない。
- 去年オリンピックで乾選手が出られた。あれも、近江八幡市としては何もしていない。やっぱり、せっかく近江八幡市から乾さんという方が出ているのなら、八幡としても「こういう選手が出ている」と。子ども達に見せて、「僕らも頑張ったらオリンピック出られる」「あこがれの人だ」と、もっと夢を持たせるように考えていただけたら。やはり、スポーツというのは、子ども達に夢を与えることが大事。

- 生涯スポーツ課 駅伝に関しましては、できた経緯が合併の中で、各学区を回るというのが、元々の始まりだったので、なかなかそのラインを崩すことができずに今日まで来ている。
- 委員 学区の中を走るのには良いが、田んぼの真ん中を走らせてはいけない。警察の関係もあるが、富士宮は実際、県道を走らせているし、箱根駅伝は東京のど真ん中である。そこまでしろとは言わないが。
- 生涯スポーツ課 あれぐらいになると、逆に可能となる。
- 委員 そこまでしろとは言わないが、せっかくのスポーツ大会なので、子ども達が夢や憧れを持つような大会にしていきたい。
- 生涯スポーツ課 乾選手については、今年度市民栄誉賞を授与させていただいている。
- 委員 賞を与えることより、子どもと乾選手が会って、いろいろな刺激を受ける方が大きいと思う。
- 学校教育課 教育委員会として、有名選手を招待する事業をするのも一つであり、それぞれの学校もゆかりのある先輩ということでやっていただいたらよいと考える。
- 委員 先日も、陸上の花田選手の講演をきいた。あの人の話は素晴らしい。子ども達がものすごく夢を持つような話をされた。
- 委員長 「読書活動の推進と読書環境の充実に努め、誰でも、何でも聞ける・調べられる図書館」を目指します」について、意見をお願いします。
- 委員 活字離れが激しいし、広く市民が読書に目覚めていくような方向性、計画が必要。ブックスタートで終わりではなく、図書館にもっと来てもらう仕掛けがないといけない。
- 図書館 図書館の館内業務は、おはなし会等の実施、今年度から図書館のコーナーの充実ということで、ポップ作りで工夫を始めた。館外業務は、各小学校3年生以上、中学校1年生までにブックトークを行っている。ブックスタートについては、4ヶ月検診で、お母さんに、絵本や読み聞かせの大事さを紹介している。
- 委員 一般市民をどう引き込むのかということを行っている。図書館の業務だけでいいのか。図書館に来られる方を増やす、そうではなくて、来られなくても、本を読まれる市民を増やすことを、やってほしいと思っている。

委員	図書館から遠い地域の子どもはなかなか行けない。子どもとしては、読書を進めるに当たっては、学校図書館が一番。学校図書館と図書館がどう連携していくのか。ブックスタートをして、地域、園、学校の連携をどう持ってくるかということが、これからの大きな課題だと思う。
学校教育課	学校との連携については、学校整備という形で、図書館も入り連携している。選書については、図書主任会で、周知している。 子どもたちが、豊かな読書体験ができるような取組は、図書館としても今後もやっていきたい。特に図書館から離れた学校については、来年度重点的に、特に武佐小学校は取り組んでいきたいと考えている。
委員長	「近江八幡の自然と歴史を大切にし、文化遺産の保存・活用・継承を図ります」に対して、意見あればお願いしたい。
委員	市史は予定より遅れているのか。
文化観光課	半年遅れている。
委員	売れ行きはどうか。
文化観光課	確かに厳しい状況である。
委員	国文学研究所で、武佐塾太鼓はあったのか。
文化観光課	なかったものが、復活されたと聞いている。武佐宿で、この事業を利用し、太鼓の補修や整備し復活したと聞いている。
委員	左義長はここに入っていないのか。
文化観光課	ここの中には、入っていない。近江八幡市の3大火祭り（左義長まつり・八幡祭り・篠田の花火）を保存事業として進めている。
委員	八幡学区の人が見たら、さびしいと思うのでどこかに入らないか。
委員長	2つ目の目標「近江八幡の自然と歴史・文化に親しむ機会を充実させ、地域文化育成の環境づくりに努めます」についても併せてご意見をいただきたい。
委員	学校教育課で、青少年美術展があり、大変だと思うが、一人の子どもに、4人、5人で、ついて見に来られるのでできるだけ多く選んで、続けてほしい。

- 学校教育課 展示場所があれば、どんどんしていきたい。
- 委員 市の美術展、市展は、若い人が行かない、この原因は何なのか。
- 文化観光課 平成 27 年度に文化に関する 1, 0 0 0 人のアンケートを取った。その中では、近江八幡市の文化には、文化会館の事業内容が高尚過ぎるとか、同じものばかりとか、若い人が見に来るものがないといった意見が多かった。  
そこの部分を、どうやって解消していくか。親世代の人々が気軽に文化に親しむようなことが、一番の課題になっている。  
今後は生涯学習課と文化会館と協力し、にぎわいのある町の中で、気軽に寄ってもらえるような文化活動ができるかが一番の目標と考えている。
- 委員長 その他ご意見はないか。
- 委員 なし
- 委員長 活発にご議論いただいたことに感謝する。  
本日を含め 2 回の会議で計画の中間年としての評価や課題を議論していただいた。  
委員会での意見は非常に重要な点ばかりであった。これまでの意見を踏まえ、まずは事務局と関係課で後期計画を検討いただく。第 3 回はそれをもとに議論する予定である。

### 3 その他

次回会議の日程は、3月17日（金）の午後2時からとする。

### 4 閉会